

吹上浜でオオヒョウタンゴミムシを採集

稲畑 憲昭

筆者は2002年8月30日から9月1日にかけて淡路島に旅行に行った。宿泊したホテルが南淡町でもあり、空いた時間で吹上浜のオオヒョウタンゴミムシの生息を確認するつもりであった。30日の夕方にベイトトラップを約100個仕掛け、翌日の朝にもう100個ほど、合わせておよそ200個のコップを仕掛けた。追加した際、前日のコップを覗いたがオオハサミムシ、キボシアオゴミムシや少しのアリしか入っていなかった。最終日の朝にすべて回収したがほとんどのコップには少しのアリ以外入っていなかった。あきらめかけたところ、ハマゴウなどの下草が生えている松林の林床に仕掛けたコップにようやく1頭入っていた。体長は大あごを含めて36mmだった。

二晩とも台風の影響か雨が降り、よいコンディションとはいえなかったが本種の生息を確認できた。

トラップは芝生を植栽している場所、林床を常に掃除している場所、イネ科の植物が20cmほど繁茂している場所、下草にハマゴウなどの海浜植物が生えている場所のおよそ4つの環境に掛けた。ベイトには、すしの子、削り節、貝柱エキス、七味唐辛子を混ぜて用いた。

したがって、本種が何に誘引されたかは不明である。偶然落ちたのかもしれない。

採集成果は以下の通りである。アリとハサミムシ以外は全て回収した。

カラカネゴモクムシはトラップ設置中に採集した。

ハサミムシ目

オオハサミムシ科

オオハサミムシ
Labidura riparia japonica (de Haan) 1ex.

バッタ目

コオロギ科

スズムシ
Meloimorpha japonica (de Haan) 1ex.

カネタタキ科

カネタタキ
Ornebius kanetataki (Matsumura) 1ex.

コウチュウ目

オサムシ科

オオヒョウタンゴミムシ
Scarites sulcatus Olivier 1ex.
カラカネゴモクムシ
Platymetopus flavilabris (Fabricius) 1ex.
キボシアオゴミムシ
Chlaenius postalalis Motschulsky 1ex.
アトワアオゴミムシ
Chlaenius virgulifer Chaudoir 1ex.

ハチ目

ツチバチ科

オオモンツチバチ
Scolia histrionica japonica Smith 2exs.

アリ科

ムネボソアリ
Leptothorax congruus F.Smith 6exs.
ハリナガムネボソアリ
Leptothorax spinosior Forel 1ex.
オオズアリ
Pheidole noda F.Smith 1ex.
クロオオアリ
Camponotus japonicus Mayr 1ex.

吹上浜の近年の記録

堀田(1973)は同年8月1日キャンプ場にて夜間、歩行中の固体を1頭採集とある。奥谷(1975)は1972年7月20日電灯にて1頭採集。シロスジコガネは非常に多いとある。桂 孝次郎(私信)では1980年8月16日に、ネクターのピーチを用いたベイトトラップを30個かけて3頭入っていたそうである。前川(1984)は同年8月19日採集。詳しいデータはない。松本吏樹郎(私信)では2000年8月17日にキャンプ場の海側の海浜植物群落の切れ目のあたりでばらばらの死体を目撃したそうである。

高橋寿郎(1976)によると戦前は瀬戸内海岸沿いに広く分布していたそうである。高橋寿郎(1997)では、兵庫県での生息地は吹上浜のみであろうとある。しかも1973年当時から吹上浜では個体数は少ないようである。近年でも採集に行き、ぼうずに終わる

人が多いそうである。オオモンツチバチが非常に多かったのでコガネムシ科の幼虫は多そうであるが、オオヒョウタンゴミムシのエサと言われるシロスジコガネは確認できなかった。県内には、探せば他にも生息地があるのであろうが、吹上浜では、松林の防波堤近くの、人や車に踏まれていない部分に帯状に生息しているのではないかと今回の調査で思った次第である。

最後に、暑い中トラップを掛ける時間を下さり、手伝ってくれた北河展子さん、情報をいただいた初宿成彦さん、桂孝次郎さん、松本支樹郎さん、河上康子さんに厚くお礼を申し上げる。

<参考文献>

- 堀田 満(1973) 淡路島でオオヒョウタンゴミムシを採集 Parnassius(10):7
 奥谷 禎一(1975) 吹上浜の甲虫2種 Parnassius(14):6
 高橋寿郎(1976) 淡路島の甲虫相 Parnassius(16):4
 環境庁(1980) 兵庫県オオヒョウタンゴミムシ 調査年度1978年 日本の重要な昆虫類(近畿版):82

- 前川和昭(1984) 採集4例の報告 Parnassius(31):7
 新家 勝(1990) 武庫川の昆虫目録 伊丹の自然(8):13
 自然環境研究所(1993) 淡路島の絶滅の恐れのある野生生物(I)―淡路島版レッドデータブック第1集― 自然環境研究所:16-17
 兵庫県(1995) 兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドデータブック:112-113
 高橋寿郎(1997) 兵庫の野生動物 絶滅が心配されている動物たち:167-168
 高橋寿郎(1998) 淡路島産甲虫目録(1) Parnassius(47):3
 大野正男(2000) 日本産主要動物の種別知見総覧(53) オオヒョウタンゴミムシ(1) 東洋大学紀要 教養課程篇―自然科学―第44号 :133-162
 河上康子・稲畑憲昭(2000) 大阪湾沿岸地域における海浜・河口水域の地表性甲虫調査 関西甲虫談話会(16):1-29

(INAHATA NORIAKI

神戸市灘区八幡町1丁目2-54)

兵庫県未記録の蛾

兵庫県産蛾類分布資料・27

高島 昭

兵庫県産の蛾の文献記録と未発表記録について、筆者が収集したデータベースをもとに本誌等で順次紹介しているところであるが、全部を紹介するには相当の時間がかかる。

そのような中で筆者が採集した蛾のうち兵庫県では未記録と思われる種が増えてきた。また、本会会員である中西明德氏、八木 剛氏の格別のお計らいによって兵庫県立人と自然の博物館の収蔵標本を調査させていただいたときに発見した「県下初記録種」と思われる種もある。

そこで、筆者が現在までに参照できた文献(既報)をもとに、兵庫県から未記録と思われる蛾を紹介したいと思う。なお、筆者の貧弱なデータベースをもとにしているの、誤った知見や漏れ落ち等があるかもしれない。そのような節には御教示いただければ幸いである。

なお、採集者名の後に★印がついているものが兵庫県立人と自然の博物館で調査した標本のデータである。また、筆者採集のものは採集者名を省略する。

TORITORICIDAE ハマキガ科

Tritricinae ハマキガ亜科

1. *Pandemis dumetana* (Treitschke)
アミメトビハマキ
上郡町(船坂, 4.X.1997, 1♂)
2. *Geogepa stenochorda* (Diakonoff)
ホシオビハマキ
波賀町(坂の谷, 17.VII.1998, 1♀)
3. *Gnorismoneura hoshinoi* (Kawabe)
ホシノハマキ
波賀町(坂の谷, 27.V.1998, 1♂)
上郡町(行頭, 2.V.1995, 1ex.)
4. *Spatalistic christophana* (Walsingham)
ギンボシトビハマキ
波賀町(坂の谷, 31.VII.1998, 1♂)
5. *Acleris laterana* (Fabricius)
ヤナギハマキ
大屋町(横行溪谷, 2.V.1999, 1♂)
6. *Acleris cristana* (Denis & Schiffermüller)